

2022. 1. 31

Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動

一面に広がる落ち葉 その下はどうなっているのか？



落ち葉を踏みながら歩くと、カサカサと軽い音がして、柔らかい絨毯の上を歩いているような楽しい気分になります。でも、それを眺めているだけでは何とも殺風景。夏場にはあんなに茂っていた野草はどこに行ってしまったの？ 観察者の中には「何にも生えていないので観察するものがない！つまらない」と言い出す人がいます。

そこで、腰を下ろして、この落ち葉を払いのけてみました。すると、そこには、青々と草の葉が広がっていました。(↓写真の葉はカロライナアオイゴケ)

落ち葉の絨毯の役割

真冬でも天気の良い日は日光が直接地表に降り注いで地面を温めます。しかし、朝になると上空で冷やされた冷気が地上に降りてきて霜柱が立つほどに地表を冷やします。でも、落葉樹の林では、木の枝が冷気の降下を和らげ、さらにこの落ち葉が地面が凍ってしまうのを防いでいて、地中は案外温かいのです。

落ち葉は暖かい毛布の役割をしているわけです。

一般の街路では落ち葉をきれいに「清掃」してしまうのが普通ですが、赤塚公園の武蔵野台地崖線の林では落ち葉を完全に掃きとることはしていません。その理由がここにあるのです。観察したらまた落ち葉をかけておきます。



日当たりの良いところでは、落ち葉を押しつけて野草が伸びています



上の写真ではヒメオドリコソウ、カラスノエンドウなどが本葉を広げています。カラスノエンドウはすでに開花（右の4枚の1枚目）、ウシハコベ、オオイヌノフグリ、ミチタネツケバナなども花を咲かせていました。

↓密にならないように気を付けながら観察・記録活動を行っています



コロナウイルス・オミクロン株の爆発的感染拡大の状況下では、できるだけ散開して歩いています。



ニリンソウシーズンに向けての林の整備↑

1/31には大門自生地で、刈り取らない植物に付けたマーキングを外す作業も行いました。右の2枚の写真はオオハナワラビに付けたマーキングとその取り外し後。

この日はまた、大門自生地のロープで囲んだ生物多様性保護エリアで、サービスセンタースタッフが枯草の整理作業を行いました。



* 1～2月のモニタリングは、2/7、2/14、2/21 9:00 ため池公園スタート

* ニリンソウ自生地保護活動 ニリンソウ月間前の手入れ 2/20 10:00 大門観察台集合

参加大歓迎 飛び入りOK 問合せ：赤塚公園サービスセンター 03-3938-5715

今年のニリンソウ月間は3/19(日)～4/17(日)

ただいまポスター・チラシの準備中！